

令和4年度 校長より ⑭

2月14日(火)は、令和5年度入学者選抜の学力検査が実施されました。曇り空の寒い朝でしたが、開場時間の7時50分には既に受検生が受験票を片手に長蛇の列となっていました。受検生は緊張感あふれる面もちで開場とともに各試験会場へと足早に進んでいきました。仮受験票の発行者や遅刻者、体調不良者もありましたが、中学校側との連携によりどの受検生も不完全受検者の扱いとなることなく一日を終了しました。2月15日(水)と16日(木)には面接試験が行われましたが、受検生は全員が予定された面接を無事に行うことが出来ました。22日(水)には1名の追検査がおこなわれましたが、高校で授業が行われている中、こちらも予定通り実施することが出来ました。

2月28日(火)午前9時からWEBサイトにおいて、令和5年度入学者選抜の合格発表が行われました。雪解風(ゆきげかぜ)の吹く暖かい日差しの中、合格が確定した受検生が指定された時間に合格通知書と教科別採点結果を受け取りに来ていました。3月6日(月)には入学手続きが行われましたが、こちらには保護者の方にご来校いただくことで、無事手続きを済ませることができました。合格者はいよいよ本校の新入生として入学式を迎えることとなります。入学のしおりをしっかりと確認し、4月に向けて入学のための準備を進めてほしいと思います。

3月10日(金)には、第38回卒業式が挙行されました。昨年度はコロナの影響により保護者の方々には式場内でのご臨席はいただけませんでしたが、今年度は各家庭1名を条件に式場内で保護者の方々にも卒業式にご臨席いただくことができました。卒業生に対しては、私からは今年も2つの願いをお伝えさせていただきました。1つ目は、「どんな困難にも挫けず、未来を切り開き、世界を平和に導ける人になってほしい」ということ、2つ目は、「常に『感謝の念』を持ち、自分の人生を豊かなものにしてほしい」ということです。卒業生は、感慨深気な面持ちで、卒業証書授与、校長式辞、PTA会長祝辞、送辞、答辞等の様子や言葉を心に受け止めながら、この3年間を走馬灯のように振り返っているようでした。38期生にとっては、全国一斉臨時休業からスタートした高校生活でしたが、3年に渡って次々と生じてきた困難にも挫けることなくそれを乗り越え、自分の未来を開き続けた姿は大変立派であったと思います。これからも出会った仲間を大切に、日々家族に感謝しながら、自己の人生をしっかりと築き上げてほしいと思います。卒業生の保護者の皆様におかれては、これまで本校の教育活動に深いご理解とご支援を頂きましたことに心より感謝申し上げます。今後の大船高校を引き続きお見守りいただければ幸いです。どうぞよろしく申し上げます。

3月24日(金)には、令和4年度の修了式が行われました。私からは、まず、今年度のテーマ「開關」の意味の再確認をさせていただき、その後、学校行事では「白帆祭」と「六国祭」についてほぼ完全復活することができたこと、特に「六国祭」では、「応援」「チア」の男女の性別の枠を撤廃するなど、ダイバーシティに基づいた新たな扉を開いてくれたこと、部活動では、全国大会、関東大会に出場する部活や、県大会や地区大会、コンクールで成果を上げる部活があり、運動部、文化部ともに大いに活躍してくれたことなどの振り返りをさせていただきました。今年度もコロナと共に過ごした1年間でありましたが、生徒たちは皆、テーマ「開關」にふさわしい取り組みを行ってくれたと思います。4月から学年が一つ上がりますが、改めてそうした自覚をもって、令和5年度を迎えてほしいと思います。保護者の皆様におかれましては、1年間のご支援ご協力を賜り誠に有難うございました。来年度も引き続きよろしく申し上げます。

令和5年3月

神奈川県立大船高等学校 校長 幸田 隆